



Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

創立：1980年(昭和55年)11月10日
 会長：泉 憲一
 幹事：亀井 直人
 副幹事：山回 哲司
 例会日：毎週木曜日PM12:30～
 会場：ビルトン名古屋
 事務局：460-0008
 名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号
 TEL：052-211-3803
 FAX：052-211-2623
 MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
 URL：http://www.mizuho-rc.jp/

故 大島浩嗣さんを偲ぶ



追悼文

2013～2014年度 会長 泉 憲一

大島浩嗣さんは、昭和57年(1982年)2月18日に名古屋瑞穂ロータリークラブに入会されました。31年余の長きにわたり在籍され当クラブにはかけがえのないメンバーでした。

1990～1991年度には幹事、2004～2005年度には会長、2011～2012年度には地区大会実行副幹事等を歴任され、クラブの広い範囲でご活躍をされました。その誠実な人柄は皆が認めるところでした。

2011年11月の地区大会直前に病気が発症し、当日はやむなく欠席となり、責任感が強い大島さんは大変残念がっていらっしやいました。その後病気療養に入られましたが、今年の1月の創立記念例会には、奥様とご一緒に出席され、久しぶりに皆さんと楽しく会食をしていらっしやいました。まだまだお元気だと思っておりましたので、突然の訃報に驚きました。72歳ということで、本当にお名残り惜しいばかりです。

私が入会しました平成5年当時は、まだ弊社も文房具製造が主流でして、その関係で文具業界での知人「愛知ココヨ」さんなどと交流があり、また、ロータリークラブつながりでゴル

フの共通の友人も多くありましたので、その様な関係で大島さんともお会いする機会が多くありました。

お聞きしたところ、大島さんは、立教大学を卒業して、明治時代から続いている父親の会社「株式会社ヤマサンイトウ」を受け継ぎ、元々は掛紙を印刷する会社だったのを時流に合うように手をひろげ、紙製品やタレ瓶、お弁当のバックの樹脂製品などお弁当に関連する全般を扱うようになったということです。単に物を売るのではなく、メーカーの代理店としてお客様に一番あった物を提案し、困っているお客様の手助けをさせていただいているとおっしゃっていました。会社の経営方針をうかがうと、一つ 仕事を通して自分自身を修練、一つ 仕事を通して社会へ奉仕、一つ 仕事を通して生活向上、ということでした。一生涯を貫く仕事をもち、ロータリーを筆頭に社会のために奉仕し、決して恩にきせない立派な人でした。ご子息様に譲られた会社は、大島さんの経営方針が立派に受け継がれています。

大島さんの長い間の名古屋瑞穂ロータリークラブへのご貢献に感謝し、そのご冥福をお祈りするとともに、ご家族がお幸せに暮らされることを願うものです。

大島浩嗣君へ「感謝のことば」

第12代会長 高村博三

故人とは、当名古屋瑞穂RC入会前に面識があったかかではないが、多分'79.11月に発足している名古屋青年会議所立教会の会員でもあったことから即意気投合したことは云うまでもない。氏は立教大学で理科系の数学科に籍を置き楽々と卒業したと聞く。入会后8年目に私が第12代会長に就任するにあたり幹事として指名したのは、同窓の誼(よしみ)と云うより頭脳の回転の速さに惚れたからである。結果は見事に表裏違わず私を支えてくれた御蔭で無事に12年度を終えることが出来ました。

誠にありがとうございました。

合掌

—ご浄福に—



大島浩嗣さんを偲んで

26代幹事 稲葉 徹

「ロータリーは人生修養の道場である。」は大島浩嗣さんが私に実感させて下さった言葉です。

大島さんの会長年度は平成16年7月1日(木)が最初の例会でスタートし、平成17年6月30日(木)に最終の夜間例会というまさに一年間目一杯奉仕をさせていただいたのが懐かしく思い出されます。大島会長とロータリーの活動について数ある思い出の中からいくつかご披露したいと思います。

大島さんは理学部出身の為か大変律儀な性格の方でした。予定者の時の春の家族会でのエピソードでは私達夫婦が昼食をとっていた時、大島さんと奥様がおみえになり、正座をされ「大島です。これから一年間よろしく。」とご挨拶を先にされてしまったことです。私自身自分の至らなさを痛感させられ、大島さんにこれから一年間恥をかかさないようにしなくてはならないと強く思ったのを今でもよく覚えております。その後幹事となってすぐに大島さんから「稲葉さん、ロータリーの事はすべて好きにやって下さい。ただし、報(告)、連(絡)、相(談)は忘れないようにして下さい」と言われ、本当にスケールの大きな人だと感心させられました。(これは高村会長年度に高村さんから当時の大島幹事に言われたことだと後に聞きました。)又、大島会長年度は創立25周年にあたり、5月には記念行事として昼に愛知万博のロータリー館で記念例会を行い、夜に特別例会を盛大に挙行できたのも、当時の野崎実行委員長長の指導力のお蔭だと大島会長と二人でその余韻に浸ったのを今でも鮮明に懐かしく思い出されます。

「ロータリーというのは、心と原点を大切にする」は、福岡西RC広畑富雄パストガバナーの本の一節です。この言葉の意味を私自身に教えていただいたのはまさに大島さんその人でありました。ある時は父として、ある時は兄として、又同じロータリアンとして接していただいた事を心に刻み、ご冥福を心からお祈り申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。合掌。